

対象事業の基本情報（準備書）

項 目		記載事項	該当ページ
	よみがな		—
事業名			
事業者名			—
アセス責任者（事業者）			—
	メール：	TEL：	
アセス責任者（環境コンサル）			—
	メール：	TEL：	
	よみがな		—
対象事業実施区域			
事業特性		☐ 新規 ☐ リプレイス ☐ 増設 【施設の概要】 ・風力発電所の区分： ☐ 陸上風力発電 ☐ 洋上風力発電 ・発電所の出力及び設置基数：_____kW × _____基（合計：_____kW） ・発電機の概要：騒音のパワーレベル：_____デシベル（A特性）（_____m/s時） ・対象事業実施区域面積：_____ha	—
		【工事内容】 ・工事の開始時期：平成____年____月（予定） ・運転の開始時期：平成____年____月（予定） ・土捨場： ☐ あり ☐ なし ・改変面積：_____ha ・切土量：_____m ³ ・盛土量：_____m ³ ・土工量（改変面積当たりの土工量及び盛土量の計）：_____m ³ /m ² ・樹木伐採面積：_____ha ・周辺の他事業の状況： ☐ あり ☐ なし	—
地域特性	大気質	・大気測定局の有無： ☐ あり ☐ なし	P.
	騒音・超低周波音、振動	・騒音に係る環境基準の類型指定の有無： ☐ あり ☐ なし ・騒音規制法及び振動規制法の規制地域の有無： ☐ あり ☐ なし ・住居、特に配慮が必要な施設の位置（最近接の距離）及び戸数 最近接の住居等の距離：_____m 特に配慮が必要な施設と距離：_____m 事業実施区域から500m圏内_____戸、1,000m圏内_____戸	P.
	水質、底質	・対象事業実施区域内における河川・湖沼の有無： ☐ あり ☐ なし ・環境基準点の有無： ☐ あり ☐ なし ・利用の状況： ☐ 水道 ☐ 漁業権 ☐ その他利水[] ☐ なし	P.
	地形・地質	・対象事業実施区域及びその周辺の重要な地形・地質の有無： ☐ あり ☐ なし	P.
	風車の影	・ローター直径の10倍の範囲内の住居の有無： ☐ あり ☐ なし	P.
	動物	・対象事業実施区域及びその周辺の動物相の概要 1) 猛禽類の生息状況（現地調査で確認した主な種） 2) 猛禽類の営巣の有無： ☐ あり ☐ なし （営巣がある場合、最寄りの風車からの距離：_____m） 3) 渡り鳥の経路の有無： ☐ あり ☐ なし 4) 確認された重要な種（現地調査で確認した重要な種） 5) 主な注目すべき生息地の有無： ☐ あり ☐ なし	P.
	植物	・対象事業実施区域内における植物の状況 1) 重要な種の有無（対象事業実施区域の周辺を含む）： ☐ あり ☐ なし 2) 重要な群落の有無： ☐ あり ☐ なし 3) 巨樹、巨木の有無： ☐ あり ☐ なし 4) 植生自然度9及び10の有無： ☐ あり ☐ なし	P.
	生態系	・注目種を含めた食物連鎖図の有無： ☐ あり ☐ なし	P.
	景観	・垂直見込み角1度以上の眺望点の有無： ☐ あり ☐ なし	P.
	人と自然との触れ合い活動の場	・対象事業実施区域内における人と自然との触れ合いの活動の有無： ☐ あり ☐ なし	P.
	指定地域等	・対象事業実施区域内における保安林の有無： ☐ あり ☐ なし ・対象事業実施区域内における自然公園指定の有無： ☐ あり ☐ なし	P.

項 目	記載事項	該当ページ
	・その他の指定（「緑の回廊」等）の有無： ☐ あり（ ） ☐ なし	

対象事業の基本情報（準備書）の記載例

項 目	記載事項	該当ページ
事業名	ようみがな とうきょうかすみがせき 東京霞ヶ関風力発電	—
事業者名	〇〇株式会社	—
アセス責任者（事業者）	〇〇〇部 〇〇〇グループ 〇〇 〇〇 メール：〇〇〇@〇〇.〇〇.jp TEL：〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇	—
アセス責任者（環境コンサル）	〇〇株式会社 〇〇〇部 〇〇〇グループ 〇〇 〇〇 メール：〇〇〇@〇〇.〇〇.jp TEL：〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇	—
対象事業実施区域	ようみがな とうきょうとちよだく、ちゅうおうく 東京都千代田区、中央区及びその周辺	—
事業特性	☒ 新規 ☐ リプレイス ☐ 増設 【施設の概要】 ・風力発電所の区分： ☒ 陸上風力発電 ☐ 洋上風力発電 ・発電所の出力及び設置基数： <u>3,000 kW×15 基（合計：45,000kW）</u> ・発電機の概要：騒音のパワーレベル： <u>105.0 デシベル（A 特性）（10m/s 時）</u> ・対象事業実施区域面積： <u>270 ha</u> 【工事内容】 ・工事の開始時期： <u>令和 10 年 9 月（予定）</u> ・運転の開始時期： <u>令和 11 年 5 月（予定）</u> ・土捨て場： ☒ あり ☐ なし ・改変面積： <u>15 ha</u> ・切土量： <u>〇〇m³</u> ・盛土量： <u>〇〇m³</u> ・土工量（改変面積当たりの土工量及び盛土量の計）： <u>〇〇m³/m²</u> ・樹木伐採面積： <u>15 ha</u> ・周辺の他事業の状況： ☒ あり ☐ なし	— — —
地域特性	大気質 ・大気測定局の有無： ☒ あり ☐ なし	準-p__
	騒音・超低周波音、振動 ・騒音に係る環境基準の類型指定の有無： ☐ あり ☒ なし ・騒音規制法及び振動規制法の規制地域の有無： ☐ あり ☒ なし ・住居、特に配慮が必要な施設の位置（最近接の距離）及び戸数 最近接の住居等の距離： <u>1km</u> 特に配慮が必要な施設と距離： <u>〇〇小学校 2km</u> 事業実施区域から 500m 圏内 <u>3 戸</u> 、1,000m 圏内 <u>45 戸</u>	準-p__
	水質、底質 ・対象事業実施区域内における河川・湖沼の有無： ☒ あり ☐ なし ・環境基準点の有無： ☐ あり ☒ なし ・利用の状況： ☐ 水道 ☐ 漁業権 ☒ その他利水〔農業用水〕 ☐ なし	準-p__
	地形・地質 ・対象事業実施区域及びその周辺の重要な地形・地質の有無： ☐ あり ☒ なし	準-p__
	風車の影 ・ローター直径の 10 倍の範囲内の住居の有無： ☒ あり ☐ なし	準-p__
	動物 ・対象事業実施区域及びその周辺の動物相の概要 1) 猛禽類の生息状況（現地調査で確認した主な種） 〔イヌワシ、クマタカ、オジロワシ、 、 、等〕 2) 猛禽類の営巣の有無： ☒ あり ☐ なし （営巣がある場合、最寄りの風車からの距離： <u>450m</u> ） 3) 渡り鳥の経路の有無： ☒ あり ☐ なし 4) 確認された重要な種（現地調査で確認した重要な種） 〔哺乳類：ヒナコウモリ科、カモシカ〕 〔鳥類：オシドリ、サンカノゴイ、オオジシギ、オジロワシ等〕 〔爬虫類：該当なし〕 〔両生類：トウホクサンショウウオ、トノサマガエル 等〕 〔昆虫類：ルリイトトンボ、スジグロチャバネセセリ 等〕 〔魚類：ドジョウ、キタノメダカ、トミヨ属淡水型 等〕 〔底生生物：マルタニシ、カラスガイ、マルガタゲンゴロウ 等〕 5) 主な注目すべき生息地の有無： ☐ あり ☒ なし	準-p__

項 目		記載事項	該当ページ
	植物	・対象事業実施区域内における植物の状況 1) 重要な種の有無（対象事業実施区域の周辺を含む）： ☒あり ☐なし 2) 重要な群落の有無： ☐あり ☒なし 3) 巨樹、巨木の有無： ☐あり ☒なし 4) 植生自然度 9 及び 10 の有無： ☐あり ☒なし	準-p__
	生態系	・注目種を含めた食物連鎖図の有無： ☒あり ☐なし	準-p__
	景観	・垂直見込み角 1 度以上の眺望点の有無： ☒あり ☐なし	準-p__
	人と自然との 触れ合い 活動の場	・対象事業実施区域内における人と自然との触れ合いの活動の場の有無： ☐あり ☒なし	準-p__
	指定地域等	・対象事業実施区域内における保安林の有無： ☒あり ☐なし ・対象事業実施区域内における自然公園指定の有無： ☐あり ☒なし ・その他の指定（「緑の回廊」等）の有無： ☒あり（緑の回廊） ☐なし	準-p__

チェックリスト（準備書）：事業特性＜第2章関係＞

No.	分類	陸上	洋上	チェックリスト項目	該当の有無	該当頁※
1	配置計画	●	●	・方法書段階から対象事業の計画を変更した場合は、その経緯等は記載されているか。 【対象事業の計画の変更内容を確認するため】		
2	対象事業実施区域	●	●	・航空写真の撮影時期は記載されているか。 【対象事業実施区域の状況を把握するため】		
3	工事計画	●	●	・工事用仮設設備、管理道路及び土捨場、風力発電機等による改変区域の詳細情報は記載されているか。 (500分の1～2500分の1程度の大縮尺の改変区域図、特に既存林道、沈砂池の位置や排出方向の情報、FH等の標高の情報) 【改変区域の状況の把握のため】		
4		●		・工事用道路、土捨場、新設道路等が計画されている場合は、代表的な箇所について断面図は記載されているか。 【改変区域の状況の把握のため】		
5		●	●	・工事用の資材等の搬出入に使用する車両の主要な交通ルート及び積み替え場と住宅地との位置関係が分かる図が記載されているか。また、文中にも記載されているか。 【工事用の資材等の搬出入に使用する車両による影響等に関する条件の把握のため】		
6		●	●	・工事用の資材等の搬出入に使用する車両について、主要な交通ルートごとの台数が記載されているか。 【予測条件の妥当性を検討するため】		
7		●	●	・工事用の資材等の搬出入に使用する車両について、走行ルートの始点（或いは、どの辺りに始点があるか）が記載されているか。 【予測条件の妥当性を検討するため】		
8	伐採	●		・伐採木の算出根拠は示してあるか 【伐採木の量の妥当性を検討するため】		
9	緑化	●		・改変区域の区分（工事用仮設設備、道路等）ごとの緑化面積の内訳は記載されているか。 【緑化計画の把握のため】		
10		●		・具体的な緑化計画の内容（緑化工法、植栽種等）が記載されているか。 【緑化計画の把握のため】		
11	風力発電機の諸元	●	●	・風力発電機の諸元（定格出力、ブレード（翼）枚数、ローター直径、ナセル高さ等）は記載されているか。（風力発電機の機種が決定していない場合は、想定される機種の諸元は記載されているか。） ・風力発電機の概形図はローター直径とナセル高さの比が概ね諸元どおりに記載されているか。 【調査、予測及び評価の方法の妥当性並びに対象事業の計画を確認するため】		
12		●	●	・風力発電機の基礎構造（陸上風力：直接基礎、杭基礎等の構造、洋上風力：ジャケット式、重力式、モノパイル式等の構造）は図面等で把握できるものとなっているか。 【調査、予測及び評価の方法の妥当性並びに事業計画を確認するため】		

チェックリスト（準備書）：事業特性＜第2章関係＞

No.	分類	陸上	洋上	チェックリスト項目	該当の有無	該当頁※
13	その他	●	●	・採用する風力発電機から発生する音の音響特性としてIEC61400に基づくA特性音圧のFFT分析結果を示し、純音成分に関する周波数(Hz)、Tonal audibility(dB)の算定と評価が行われているか。さらに周波数特性（1/3 オクターブバンド）、swish 音の特性評価は記載されているか（周波数特性のグラフの横軸（周波数）は対数表記としているか）。 ・これらの風力発電機からの発生する音に関する諸元が無い場合には、事後調査で確認することとしているか。 【騒音の予測及び評価の妥当性検証のため】		
14		●		・変電所の設置予定位置は記載してあるか。 【事業計画の把握のため】		

チェックリスト（準備書）：環境影響評価部分＜第8章及び第10章関係＞

No.	分類	陸上	洋上	チェックリスト項目	該当の有無	該当頁※
15	大気質 騒音・超低周波音、振動	●	●	・大気質、騒音及び超低周波音、振動の調査地点について、住宅、道路、測定場所の関係がわかる大縮尺の図（500分の1～2500分の1程度）と測定環境の状況が分かる現地写真は記載されているか。 【調査地点の妥当性を検討するため】		
16	大気質	●	●	・残留騒音とハブ高さにおける風速の関係について、現況調査結果を整理するにあたっては、調査地点ごとに残留騒音とハブ高さの風速との関係性も把握し、関係図を整理しているか。更に、ハブ高さにおける風速と残留騒音の関連性の有無（回帰式など）などを考察しているか。 ・【予測結果の妥当性を検討するため】		
17		●	●	・風車稼働時の風車騒音寄与値と風況の関係、残留騒音との関係について、風車稼働時の風車騒音寄与値（残留騒音を加える前の値）と、現況の残留騒音算定値及びそれから算定される指針値との関係図を整理しているか。 【予測結果の妥当性を検討するため】		
18		●	●	・地域気象観測所における風速計の測定地上高度が記載されているか。また、現地調査を行った1年間についても年間の月平均値が示されているか。 【現地調査期間が異常年でなかったどうか概略確認するため】		
19		●	●	・拡散計算式や大気安定度設定に使用した気象要素（風速・日射量等）の設定根拠（式や引用先等）は記載されているか。 【予測の妥当性を検討するため】		
20		●	●	・工事用資材等の搬出入に伴う予測に用いた月毎の工事用車両台数は記載されているか。 【予測条件の妥当性を検討するため】		
21		●	●	・[No.6 再掲] 工事用の資材等の搬出入に使用する車両について、主要な交通ルートごとの台数が記載されているか。 【予測条件の妥当性を検討するため】		
22		●	●	・冬季等の休工がある場合、工事用資材等の搬出入に伴う予測について、大気質の年平均値の設定が過小評価にならないような予測及び評価となっているか。 【予測条件の妥当性を検討するため】		
23		●	●	・勾配のある道路に予測地点を設定する場合は、排出係数の斜面走行の補正が行われているか。 【予測条件の妥当性を検討するため】		
24		●	●	・建設機械の稼働に伴う大気質の予測について、予測対象時期の設定根拠とした具体的な工程は記載されているか。 【予測条件の妥当性を検討するため】		
25		●	●	・建設機械の稼働の予測結果について、濃度コンタは対象事業実施区域内についても記載されているか。 【予測結果の妥当性を検討するため】		
26	騒音・超低周波音、振動	●	●	・ブレード等の輸送に際し積み替えが計画される場合は、100m以内に民家等があれば二酸化窒素の短期評価が行われているか。[補足説明資料可] 【工事の影響を確認するため】		
27		●	●	・道路交通騒音の調査地点の道路種別及び道路名が記載されているか。 【道路の環境基準を確認するため】		
28		●	●	・騒音の調査地点と可視領域の関係が把握できる図は記載されているか。 【調査地点が可視領域内に位置しているか否かで、予測結果に影響するため】		
29		●	●	・風力発電機から調査地点及び予測地点までの距離（水平距離、斜距離等）は記載されているか。		

No.	分類	陸上	洋上	チェックリスト項目	該当の有無	該当頁※
				【予測及び評価の妥当性検討のため】		
30		●	●	・風力発電機から調査地点及び予測地点までの地表面の状況は記載されているか。 【地表面の減衰係数設定の妥当性検討のため】		
31		●	●	・施設の稼働に係る調査で四季調査を行っていない場合は、調査時期の設定根拠について記載されているか。 【調査結果の妥当性検討のため】		

チェックリスト（準備書）：環境影響評価部分＜第8章及び第10章関係＞

No.	分類	陸上	洋上	チェックリスト項目	該当の有無	該当頁※
32	騒音・超低周波音、振動	●	●	・除外音処理の手法は記載されているか。 ・実測により除外音処理を行う場合、環境騒音を支配する音の調査方法及び調査結果は記載されているか。 【調査結果の妥当性を確認するため】		
33		●	●	・環境騒音の測定結果について、環境を支配する音の種類（自然由来、人為的由来）を把握しているか。 【現況の把握のため】		
34		●	●	・残留騒音とハブ高さにおける風速の関係について、現況調査結果を整理するにあたっては、調査地点ごとに残留騒音とハブ高さの風速との関係性も把握し、関係図が整理されているか。また、ハブ高さにおける風速と残留騒音の関連性の有無（回帰式など）などの考察結果が記載されているか。 【調査結果の妥当性検討のため】		
35		●	●	・施設の稼働に伴う騒音予測について、地表面の影響による減衰計算に用いた地盤係数の設定根拠は記載されているか。 【予測方法の妥当性検討のため】		
36		●	●	・騒音の予測について、地形・構造物等の効果（回折、遮蔽）を考慮しているか。 【予測及び評価の妥当性検証のため】		
37		●	●	・音の伝わりやすい条件（年平均気温・湿度）を算定し、空気吸収音の影響を考慮しているか。 【予測の妥当性を検討するため】		
38		●	●	・予測計算の妥当性を確認するために、風力発電機の寄与値のみではなく、寄与値を算出する過程で考慮された個々の減衰項について予測値が示されているか。[補足説明資料可] 【予測計算の妥当性を確認するため】		
39		●	●	・風車稼働時の風車騒音寄与値と風況の関係、残留騒音との関係について、風車稼働時の風車騒音寄与値（残留騒音を加える前の値）と、現況の残留騒音算定値及びそれから算定される指針値との関係図が整理されているか。 【予測・評価結果の妥当性検討のため】		
40		●	●	・現状において暗騒音が低い場合、5dB 程度以上の増加によって騒音が知覚される可能性があることに留意して評価を行っているか。 【評価の妥当性検討のため】		
41		●	●	[No.5 再掲] ・採用する風力発電機から発生する音の音響特性として IEC61400 に基づく A 特性音圧の FFT 分析結果を示し、純音成分に関する周波数(Hz)、Tonal audibility(dB) の算定と評価が行われているか。さらに周波数特性（1/3 オクターブバンド）、swish 音の特性評価は記載されているか（周波数特性のグラフの横軸（周波数）は対数表記としているか）。 ・これらの風力発電機からの発生する音に関する諸元が無い場合には、事後調査で確認することとしているか。 【風力発電機による騒音の影響を確認するため】		
42		●	●	・超低周波音を評価項目としている場合、G 特性音圧レベルと風速の関係について、G 特性音圧レベルとハブ高さの風速の関係を整理し、その関連性（の有無）について考察すること。 【調査結果の妥当性検討のため】		

チェックリスト（準備書）：環境影響評価部分＜第 8 章及び第 10 章関係＞

No.	分類	陸上	洋上	チェックリスト項目	該当の有無	該当頁※
43	水質	●		・風力発電機が設置される箇所の土壌の種類を考慮した調査地点を設定しているか。 【予測条件の妥当性を検討するため】		
44		●		・沈砂池を設置する場合、集水範囲は記載されているか。 【予測条件の妥当性を検討するため】		
45		●		・ 現地調査等により土地改変区域周辺の河川・沢筋等を調査した結果が地図に示されているか。 【予測条件の妥当性を検討するため】		
46		●		・沈砂池排水の河川への合流点における調査及び予測を行う場合は、水の濁りの調査地点及び予測地点について、排水の流入点と河川との合流点から可能な限り近い箇所に設定されているか。 【予測結果の妥当性を検討するため（予測地点が排水の流入点と河川との合流地点よりかなり下流であると他の発生源からの濁りの影響が生じるため）】		
47		●		・水の濁りの予測で用いる条件（時間降雨量、流出係数等）は記載されているか。 【予測の妥当性を検討するため】		
48		●		・ 最近の気象状況を踏まえた集中豪雨的な強雨時の場合についても予測・評価がなされているか。 【最近の状況に即した予測・評価等が行われているか】		
49		●		・水の濁りの予測条件である時間降雨量の設定根拠（10 年確率等）は記載されているか。 【予測条件の妥当性を検討するため】		
50		●		・水の濁りの予測について、風力発電機が設置される箇所等土地の改変を行う箇所の土壌が異なる場合は、沈降性の低い土質を予測条件として用いる等安全側の予測となっているか。 【予測条件の妥当性を検討するため】		
51		●		・水の濁りの予測で用いる改変区域からの流出係数の根拠（県の林地開発許可制度等）等が記載されているか。 【予測条件の妥当性を検討するため】		
52		●		・水の濁りの予測で用いる初期濁水濃度（造成に伴う裸地面からの降雨等の濁り）について、設定根拠は記載されているか。 【予測条件の妥当性を検討するため】		
53		●		・水の濁りの予測で林床部の物理的な機能で浄化可能とした場合は、文献を引用する等、客観性のある情報を用いて予測及び評価を行っているか。 【予測の妥当性を検討するため】		
54		●		・排水の沢等までの到達可能性を推定している場合には、林床部の植生等を踏まえた浸透性を評価し、その予測手法が妥当であるか記載されているか。 【予測の妥当性を検討するため】		
55	風車の影	●		・最近の気象状況を踏まえ、強雨時における沈砂池及びその周辺における環境監視計画が記載されているか。 【最近の状況に即した環境保全措置が行われているか】		
56		●		・道路拡張工事箇所からの流水方向や濁りの影響についても予測・評価され、その評価結果及び環境保全措置が具体的に記載されているか。 【予測・評価の妥当性を検討するため】		
57			●	・底質の粒度組成の情報が記載されているか。 【予測条件を確認するため】		
58	風車の影	●	●	・風車の影の影響が大きい場所及び施設（学校、住宅等）の周辺の状況（その場所及び施設から 風力発電機設置方向の遮蔽状況 、落葉樹及び針葉樹の季節変化を含む）について把握しているか。 【調査、予測方法の妥当性の検討のため】		

No.	分類	陸上	洋上	チェックリスト項目	該当の有無	該当頁※
59		●	●	・風車の影の予測について、地形を考慮した日影図が記載されているか。 【予測の妥当性を検討するため】		
60		●	●	・風車の影の影響を受けるおそれのある住宅等について日影の計算結果が自ら設定した評価基準を超える場合、実際の気象条件を考慮した検討等を行っているか。 【予測結果の妥当性を検討するため】		

チェックリスト（準備書）：環境影響評価部分＜第 8 章及び第 10 章関係＞

No.	分類	陸上	洋上	チェックリスト項目	該当の有無	該当頁※
61	風車の影	●	●	・風車の影に関する評価の考え方は記載されているか。 【評価の妥当性を検討するため】		
62		●	●	・風車の影の影響が評価基準を超過する場合、事後調査で確認することが記載されているか。 【予測の不確実性への対応のため】		
63		●	●	・環境保全措置について、具体的な内容が記載されているか。 【環境保全措置の妥当性を確認するため】		
64	動物（コウモリ）	●	●	・コウモリ調査を実施した場合には、調査方法及び結果の詳細が示されているか。 （具体的な調査機器、調査時間帯や調査範囲、トラップ調査の配置の考え方、飛翔高度・頻度の把握方法 等） 【調査方法の妥当性を確認するため】		
65	動物（鳥類）	●	●	・ラインセンサス法、ポイントセンサス法の調査結果は、調査ルート・調査地点ごとに記載されているか。 【調査、予測及び評価の妥当性を検討するため】		
66		●	●	・鳥類調査の結果は定量的（環境類型区分（植生型）毎の特徴を把握するとともに、風力発電機との位置関係について解析・整理）にとりまとめられているか。 【調査結果の妥当性を確認するため】		
67		●	●	・重要な種（猛禽類等）の飛翔図は月別に整理し、その図には繁殖行動の状況、飛翔高度、幼鳥の飛翔、風力発電機の位置が記載されているか。 【調査、予測及び評価の妥当性を検討するため】		
68		●	●	・重要な種（猛禽類等）の営巣地が事業地直近にある場合、行動圏内部構造の解析結果を図示しているか。 【調査結果の妥当性を確認するため】		
69		●	●	・鳥類（重要な種（猛禽類等））の衝突確率は種別に記載されているか。 【予測結果の妥当性を確認するため】		
70		●	●	・衝突確率について、計算で用いた項目及び値が分かるように記載されているか。 【予測結果の妥当性を確認するため】		
71		●	●	・代替巣や餌場の設置等の環境保全措置を行う場合は、具体的な設置場所等は提示されているか。 【環境保全措置の妥当性を確認するため】		
72		●	●	・バード・バットストライクの事後調査（衝突実態調査）について、1 回/週以上の頻度で専門の調査員が調査を実施する計画となっているか。 【事後調査方法の妥当性を確認するため】		
73	植物	●		・現存植生図は現地調査を踏まえ作成（見直し）しているか。 【調査方法の妥当性を確認するため】		
74		●		・ブラウン-ブランケ法による調査結果について、植生調査票、群落組成表を作成しているか。〔補足説明資料での記載可〕 【調査方法の妥当性を確認するため】		
75		●		・植生自然度の高い場所については、植生断面図が作成、記載されているか。 【調査結果の精査のため】		

チェックリスト（準備書）：環境影響評価部分＜第 8 章及び第 10 章関係＞

No.	分類	陸上	洋上	チェックリスト項目	該当の有無	該当頁※
76	植物	●		・ 植生自然度についての区分結果について文中と図が記載されているか。また、植生自然度と改変区域との関係が記載されているか。 【調査結果の精査及び予測結果の妥当性を確認するため】		
77		●		・ 調査地域に特殊な環境が存在する場合（小規模な湿地、洞窟、噴気口の周辺、石灰岩地域など）は、そのことが記載されているか。 【特筆すべき場を確認するため】		
78		●		・ 植物目録を作成する際に準拠した目録・根拠を示しているか。 【調査結果の整理方法を確認するため】		
79		●		・ 対象事業実施区域内に重要な種が確認され、移植する場合は、移植先の植生調査等を実施しているか。また、必要に応じ移植後の事後調査が計画されているか。 【環境保全措置の妥当性を確認するため】		
80		●		・ 植生調査票及び組成表は準備書の資料編として記載されているか。 【予測・評価結果の妥当性を検討するため】		
81	生態系	●	●	・ 注目種の選定理由について、選定過程（候補種の条件項目の適合状況の整理結果表を用いる等）が明示され、客観的に選定されているか。 【予測方法の妥当性を確認するため】		
82		●		・ 注目種の選定に関して、風力発電の特徴として空間に移動体が位置することに対する影響を評価する必要があることから、空間を生息環境とする種に注目した検討がされているか。（1 種に拘らず複数種の観点も踏まえ適切に設定されているか） 【注目種の妥当性を検討するため】		
83		●		・ 食物連鎖図に選定した注目種が記載されているか。 《今一度チェック：記載されている種の生態特性を踏まえた適切な記載になっているか》 【注目種の妥当性を検討するため】		
84		●		・ 生態系の調査、予測及び評価のフロー、モデルが注目種ごとに記載されているか。 【調査、予測及び評価の方法の妥当性を検討するため】		
85		●		・ 注目種の餌種は地域の特性（餌種の構成割合、季節変化等）を踏まえたものになっているか。 【調査、予測方法の妥当性を確認するため】		
86		●		・ 餌資源量は、定量性を担保した調査点数の配置（各環境類型区分毎に複数のデータを取得）に基づく結果となっているか。 【調査、予測結果の妥当性を確認するため】		
87		●		・ 猛禽類等の好適繁殖環境分布図を作成する場合は、実際の営巣の状況が反映されるようにパラメータの設定が検討されているか。 【予測条件の妥当性を確認するため】		
88		●		・ 猛禽類等の好適生息環境分布図を作成する場合は、調査結果と整合が取れているか 【予測方法の妥当性を確認するため】		
89		●		・ 猛禽類等の好適営巣環境及び好適採餌環境の区分の予測結果が実体と乖離している場合は、その妥当性の検討結果が記載されているか。 【予測方法の妥当性を確認するため】		

チェックリスト（準備書）：環境影響評価部分＜第 8 章及び第 10 章関係＞

No.	分類	陸上	洋上	チェックリスト項目	該当の有無	該当頁※
90	生態系	●		・クマタカの事後調査を実施する場合、以下の視点を踏まえ計画されているか。 ・工事および風力発電機の稼働を対象に、飛翔行動を確認する調査となっているか（高利用域及び営巣中心域の変化を把握）。 ・繁殖状況の確認（繁殖の成否）については、風力発電機稼働後の調査が計画されているか。 【事後調査方法の妥当性を確認するため】		
91		●	●	・注目種の選定に関して、空間を生息環境とする種に注目して検討されているか。（1 種に拘らず複数種の観点も踏まえ適切に設定すること） 【選定した注目種の妥当性の検討のため】		
92	景観	●	●	・主要な眺望点からの眺望方向を選定した根拠（景観資源の存在等）は記載されているか。 【予測条件の妥当性を検討するため】		
93		●	●	・主要な眺望点について、利用特性（利用状況等）は記載されているか。 【眺望点の設定の妥当性を確認するため】		
94		●	●	・主要な眺望点からの眺望方向について、図中に矢印又は扇等により示しているか。 【予測条件の妥当性を検討するため】		
95	廃棄物	●		・伐採木が発生する場合、具体的な伐採量、処理方法は記載されているか。 【廃棄物の発生量や処理量を確認するため】		
96	その他	●	●	・専門家へのヒアリングを実施した場合、ヒアリングを実施した年月、専門家の所属機関の属性、専門家の意見、事業者の対応が記載されているか。意見の根拠となる資料等がある場合は、その情報は記載されているか。[非公開可] 【専門家の意見を確認するため】		
97		●	●	・事後調査における、環境影響の程度が著しいことが明らかとなった場合の対応の方針について「環境影響の程度が著しい」と判断する考え方は記載されているか。 【事後調査の評価の考え方を確認するため】		

チェックリスト項目に該当する場合、準備書に記載しなかった理由を記載

No	準備書に記載しなかった理由

チェックリストの記載例

チェックリスト（準備書）：環境影響評価部分＜第 8 章及び第 10 章関係＞

No.	分類	陸上	洋上	チェックリスト項目	該当の有無	該当頁
19	大気質	●	●	・拡散計算式や大気安定度設定に使用した 気象要素 （風速・ 日射量等 ）の設定根拠（ 式や引用先等 ）は記載されているか。 【予測の妥当性を検討するため】	○	準 p145
15	大気質 騒音・超低周波音、振動	●	●	・大気質、騒音及び超低周波音、振動の調査地点について、住宅、道路、測定場所の関係がわかる大縮尺の図（500 分の 1 ～2500 分の 1 程度）と測定環境の状況が分かる現地写真は記載されているか。 【調査地点の妥当性を検討するため】	○	調査地点図：準 p160 現地写真：理由-No.4

チェックリスト項目に該当する場合、準備書に記載しなかった理由を記載

No	準備書に記載しなかった理由
4	現地写真には、個人の住居が含まれるため、非公開とする。 なお、現地写真は環境審査顧問会風力部会の補足説明資料で示す。

※ 「該当頁」については、方法書に記載の場合は「方-p●」、補足説明資料（非公開版含む）に記載する予定の場合、記載**していない**場合は「理由-No.●」等と記入すること。